

News Letter

このニュースレターでは、大学院教育支援機構、国際高等教育院、学務部に関する最新の活動や取り組みについてお知らせします。

キャリア支援

産学協同教育コースおよび教育能力向上コースを開講

大学院教育支援機構では、本学大学院生の多様なキャリアパスを支援するため、「大学院教育支援機構コース」として、いくつかの教育プログラムを実施しています。

その中で、研究成果を大学や研究機関にとどまらず、広く社会に展開するために必要な知識を身につける「産学協同

教育コース」には、2025年度に新たに52名が登録しました。また、将来大学教員を目指す学生が、自身の専門を初学者や異分野の学生にもわかりやすく伝える力を養う「教育能力向上コース」には、65名が登録しました。

●産学協同教育コース

本コースに含まれる科目のうち、いくつかはすでに開講されており、選択科目の一つ「企業の社会的責任—ESGの取組について—」は35名の学生が履修しました。受講生は、普段は直接話を聞く機会の少ない産業界の第一線で活躍する大手企業（シスメックス株式会社、京セラ株式会社、ダイキン工業株式会社、日東電工株式会社、川崎重工業株式会社、株式会社村田製作所）役員との対話を通じて、実社会で生きる知見と経験を得ることができました。



●教育能力向上コース

本コースは、通年集中科目「教育デザイン基礎講座、実践授業・模擬授業」と前期集中科目「大学教員になる人のための学生支援論」から構成されています。前者はすでに講義・演習が始まっており、受講生たちは授業デザインの知識を身につけるとともに、自らが教壇に立つ「実践授業・模擬授業」に向け、シラバスや授業内容の検討を進めています。専攻が異なるメンバーから成るグループワークでも、活発な意見交換が行われました。

国際教育支援

The International Networking Meeting (INM)、会話クラブを開催

国際高等教育院附属国際学術言語教育センター(i-ARRC)では、教養・共通教育における外国語科目の運営を行うとともに、学生の自主的な言語学習を支援しています。2025年度は、留学生と日本人学生が自由に集い語り合うThe International Networking Meeting (INM)と日本語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、アラビア語、朝鮮語の各言語の会話クラブを実施しています。

INMでは、海外の大学からの交換留学生や新入学生を含む多くの留学生と日本人学生が参加し、昼食をとりながら自由に会話を楽しんでいます。

また、会話クラブでは、オフィスアシスタントの学生をファシリテーターとして、参加者のレベルに合わせた会話練習を行っています。

どちらも昼休みに国際高等教育院棟1階エントランスホールで実施しており、当日参加も可能ですので、興味のある方は是非気軽に参加してみてください。前期は7月中旬まで、後期も実施予定です(曜日は変更の場合あり)。各会話クラブの詳細情報はi-ARRCのウェブサイトにも掲載しています。



国際高等教育院附属国際学術言語教育センター(i-ARRC)ウェブサイト

<https://www.i-arrc.kyoto-u.ac.jp/intercultural-edu/clubs>
(各会話クラブの紹介)

MON	TUE	WED	THU	FRI
INM	スペイン語 イタリア語 ロシア語 アラビア語	日本語 フランス語	中国語 ドイツ語 朝鮮語	INM



外国語会話クラブ



INMの様子



日本語会話クラブ

国際教育支援

国際高等教育院LINE公式アカウントを開設

この度、国際高等教育院は、学生の皆さんへよりタイムリーに、そしてより多くの情報をお届けするため、国際高等教育院LINE公式アカウントを新たに開設しました。国際高等教育院が提供する全学共通科目、語学学習、各種イベント、留学プログラムなど、学生の皆さんの学びをサポートする情報をこのアカウントを通じてお届けします。

ぜひ、この機会に国際高等教育院LINE公式アカウントを友だち追加して、最新情報をゲットしてください。

友だち追加は
こちらから



留学生のリクルーティング

KU-STAR (Kyoto University Short-Term Academic Research) Program for India 2025 がスタート

大学院教育支援機構は、2024年度からKU-STAR (Kyoto University Short-Term Academic Research) Programを実施しています。約2か月の短期研究室受入プログラムで、インドから2度目の受入れとなる今回は、519名の応募者から選抜された31名の優秀な学生が参加しています。

学生たちは経済学研究科、工学研究科、農学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科、生命科学研究科、総合生存学館、地球環境学舎、経営管理大学院、化学研究所、防災研究所、iCeMS、TRiKUCで、それぞれの研究に励んでいます。

プログラムの成果は7月16日のポスターセッションで発表されます。また、研究活動の他に日本語授業、二条城見学、企業訪問等で、多角的な学びと交流を深めています。





英語リスニング力向上のためのYouTube動画 ELME (English Listening Made Easy) を公開

国際高等教育院附属国際学術言語教育センター(i-ARRC)英語教育部門では、**本学の構成員(学部生・大学院生・常勤および非常勤の教職員)**を対象に、英語リスニング力向上のためのYouTube動画(通称 ELME: English Listening Made Easy)を公開しました。



これらの動画では、子音・母音の発音、実際のスピーチでの発音の変化、リズム・イントネーションについて、詳しく解説しています。皆様の英語学習にぜひご活用ください。

ELME動画はこちらから(ECS-IDまたはSPS-IDでの認証が必要です)

春休みの短期海外留学派遣プログラムを実施

2025年2月～3月にかけ、タイ(チュラーロンコーン大学)、インドネシア(インドネシア大学)、中国(浙江大學)、台湾(国立台湾大学)、韓国(延世大学)、スペイン(バルセロナ大学)、オーストリア(ウィーン大学)において7つの短期派遣留学プログラムを実施し、合計88名の本学学生が参加しました。

各プログラムでは、参加学生たちが約2～3週間、**派遣先で現地語や英語で文化・社会**



等についての授業を受けるとともに、

現地学生との共同発表など様々な交流を行います。例えば、2024年度新規実施のスペインのプログラムでは選抜された20名の参加学生が、スペイン語、カタルーニャ語を学びながら、バルセロナ中心地の歴史的建造物見学や公立小学校への訪問、現地学生とのディスカッション等を行いました。

本プログラム参加が今後の国際交流・語学学習への学生の意欲を高め、進路やキャリアを考える契機となっています。



海外留学情報ポータルサイトの公開

国際教育交流課では、海外留学に関する情報を集約し、発信する海外留学情報ポータルサイト(Study abroad from Kyoto University)を新たに開設しました。

このサイトでは、留学の概要から留学前後の手続きの説明、大学間学生交流協定による交換留学や短期プログラムを始めとした各種留学プログラムの紹介や最新の公募情報、さらには留学のための奨学金の公募情報や先輩の留学体験談など、今まで複数の媒体に点在していた留学に関する多様な情報をワンストップで学生に提供します。今後も内容の充実を図り、より多くの学生が留学に興味を持ち、留学を実現するために役立つ情報を発信していきます。



<https://studyabroad.opir.kyoto-u.ac.jp/>



国際教育支援

留学生のリクルーティング

2025 AMGEN SCHOLARS PROGRAMがスタート

2015年より本学で実施している学部生対象のサマリーサーチプログラム「アムジェン・スカラーズ・プログラム」が、今年も始動しました。2025年度は、**アジア各国の大学に在籍する優秀な学部生15名がスカラーとして選出**されました。

6月6日にプログラムがスタートし、同日午後にはオリエンテーション、夕刻にはカンフォアで歓迎会が開催されました。

オリエンテーションではプログラムディレクターの吉村特定教授(生命科学研究科)から本学の沿革や研究活動での

注意点や心構えが説明されました。

歓迎会には、受け入れ研究室の指導教員や研究室メンバーも多数参加し、50名を超える賑やかな交流の場となりました。大学院教育支援機構の平島機構長、石川副学長兼総合研究推進本部副本部長からも温かい激励のご挨拶を頂きました。

スカラーたちは、8月1日に本学で成果発表会を行い、8月5日から7日には、本学で開催されるアジアシンポジウムにて研究成果を発表する予定です。



国際教育支援

「ウクライナ文化イベント」を開催

国際教育交流課では5月30日、**文化を通じてウクライナに関心をもってもらうこと、ウクライナ学生と本学学生との交流を促すこと**を目的とした国際交流イベント「ウクライナ文化イベント」を開催し、**63名が参加**しました。

イベントでは料理、アート、民族衣装などウクライナの文化を紹介するプレゼンや展示を行い、参加者はハーブティーを楽しみながら聞き入りました。本学学生からは「戦争以外の文脈で固有の豊かな文化について知る貴重な機会となった」、ウクライナ学生からは「自国の文化に興味を持ってもらえた。このような機会に感謝したい」との声があり、双方が今後も交流を続けたいと思えるよいきっかけとなりました。

